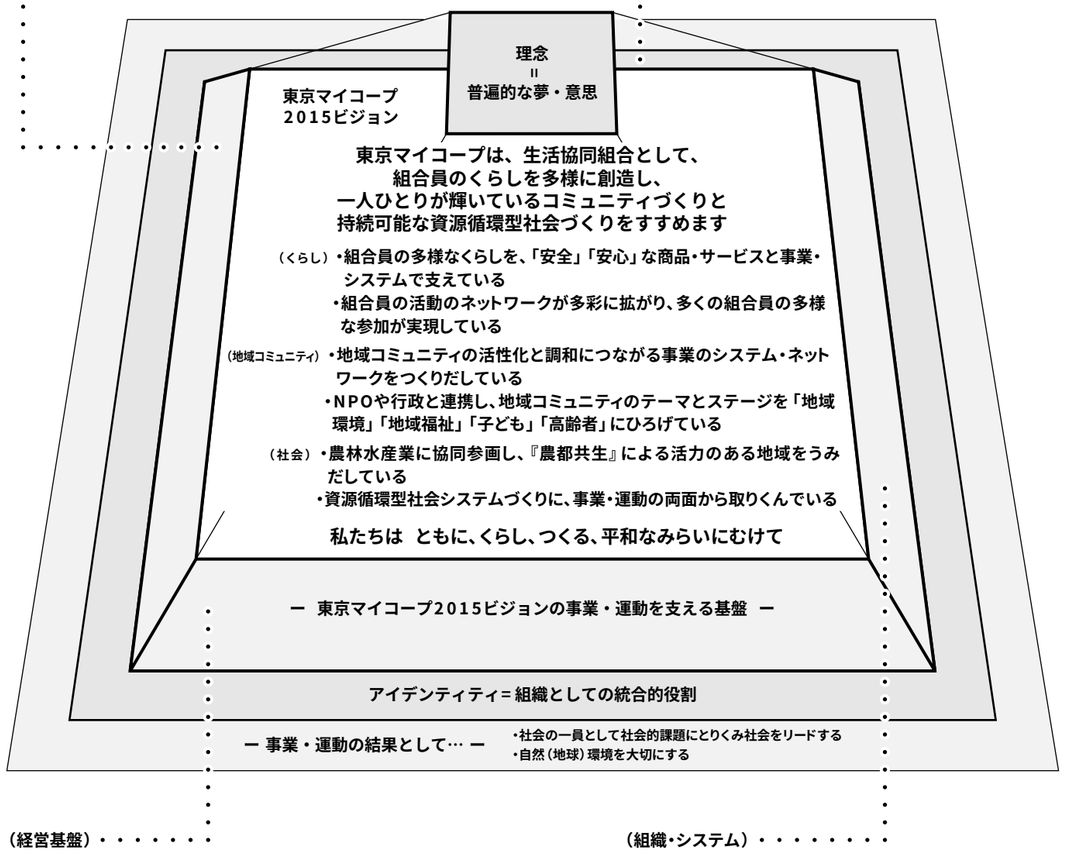
「理念ービジョンーアイデンティティ」の関係の中で、「東京マイコープのビジョン」が分りやすくなるように構造的な見え方で表現しました。（枠外の内容は「案」であり、今後検討していきます）

（活動の場）

1. 一人ひとりのくらし課題解決のため、「くらしの創造・研究の場」ができている
2. 地域に開かれ、社会貢献できる組合員活動の拠点となる施設ができている
3. 職員や「リーダー経験のある組合員」に多様な働く場を提供している
4. インターネットなどを活用した多様な活動参加や交流の場ができている
5. 次世代への文化や技術などを伝承し、学びあい・教えあう「創造の場」が全地域にできている

（ネットワーク）

1. NPOなど新たな労働・活動とのネットワークが形成されている
2. 異なる組織との課題別コラボレーションができている
3. 地域から東アジア・東南アジアまで社会性・事業性ある交流ができている



（経営基盤）

1. 2015年における事業は総事業高1,000億円、組合員数50万人になっている
2. 「ゆるぎない財務状況」になっている
3. 「コンプライアンス経営」がされている
4. 実績データによるスピーディーな事業経営になっている
5. 働く者の意志と能力が発揮できる人事制度になっている
6. 1,000億円事業が多様な労働形態で支えられている
7. 事業高20億円の新規事業を行っている

（組織・システム）

1. 組合員一人ひとりを主体とする組織・システムになっている
2. 組合員一人ひとりの意思が反映している運営・参加システムになっている
3. 「IT」を基盤とする事業（支援）システムができている
4. 社会とのかかわりでの監査システムが稼動している

（ビジョンに使われている言葉の説明）

1	組合員のくらし	組合員個人を主体に、家族を主な単位として形成される生き方・行動の姿。
2	多様なくらし	「組合員個人を主体に、家族を主な単位として形成される生き方・行動の姿」がいろいろ異なるさま。
3	一人ひとり	全ての人を分け隔てなく主体としてとらえること。
4	輝いている	一人ひとりが受身でなく能動的に他者や社会に関わり、生きがいをもっている状態。
5	地域	目的や課題によって特定できる空間的なひろがりをもつ圏域。
6	コミュニティ	コミュニティとは「一定のルールを共有する人々の集まり」であり、地域のくらしを共有する「地域コミュニティ」と、関心や想いを共有する「テーマ・コミュニティ」としてとらえられる。 コミュニティ ┬ 地域コミュニティ 　　└ テーマ・コミュニティ
7	地域コミュニティの活性化と調和	「地域コミュニティ」が経済・労働・協働・文化などの分野において質的・量的に人々の関わりと協同がひろがっているとともに、人々のくらしや地域環境とうまくつりあい、全体としてととのっている姿。
8	活力ある地域	「地域コミュニティ」が経済・労働・協働・文化などの分野において質的・量的に人々の関わりと協同がひろがっている状態の地域。『農都共生』のもとでは、都市地域並びに農・山・漁村地域それぞれに求められる。
9	地域環境	人々がくらす地域において、人または生物をとりまき相互作用を及ぼしあう関係にある全てのもの。 くらしの場から環境保全につながり、くらしやすさと調和につながるとりくみのテーマ。
10	地域福祉	一人ひとりや家族だけでは解決することが困難なくらしの諸問題を地域の人々自身による相互扶助や援助活動、人々のくらしを支えることを目的とした政策や制度により解決をはかろうとするとりくみ。
11	持続可能	1987年に国連環境開発世界委員会（ブルントラント委員会）が1987年に提唱した「sustainable development＝環境や資源を保全し、現在と将来の世代の必要をともに満たすような開発」に対する日本語訳として「持続可能な開発」が語られた。自然（地球）環境や社会のあるべき姿の形容表現として使われる様になった。
12	（持続可能な）資源循環型社会	資源を物的・人的・社会的エネルギーとして広くとらえ、可逆的なシステム（無駄をなくし、徹底した有効利用をすすめ、もってエネルギーが再生されるシステム）がつくりあげられることにより、資源の不可逆性を極力低下させている社会の姿。例えば物的資源を保全し、リデュース・リユース・リサイクルを位置付け、やむをえず廃棄物の処理を行う場合は、環境負荷を与えない方法を用いる社会。
13	『農都共生』	「資源循環型社会」を目指して、都市地域と農・山・漁村地域のそれぞれに不足する資源を結びつけることによって都市地域と農・山・漁村地域のかけ離れた状態を克服する。そして、資源が循環する協同した状態を持続発展させ、それぞれの地域コミュニティの活性化につなげる。上述の政策や活動を象徴的に『農都共生』という。
14	「安全」「安心」	「安全」とは「物事が損傷したり、危害を受けたりするおそれのないこと」で、その時代における科学的知見や予防の観点から評価されること。 「安心」とは、「安全」を含めて一人ひとりが心安らかに信頼感のある状態にあること。
15	運動	社会的な目的を達成するためのひろがりをもった行動。
16	事業	一般的には「社会的に大きな仕事」であるが、商品・サービスに関わる経済的活動を伴い、組織の存立基盤を形成する不可欠な要素である。
17	活動	組合員や職員が政策や方針に基づき、活き活きと行動すること。
18	組合員活動	組合員が生協との関わりですすめる活動のことで、参加・参画により形成される。意思表明による参加から運営への参加・参画までひろく位置付けられる。
19	ステージ	人々が参加する場のこと。ハードの場とソフトの場がある。
20	協同参画	異業種など性格の異なる組織同士が力をあわせ、共通する課題に計画の立案からその推進まで、互いにリスクと責任をもって加わること。（尚「協同」は「共同」よりリスクと責任の範囲がひろく重みをもつ。 「協働」は、主として異なる人々やその集団との協力した働きをさし『コラボレーション』ともいう。また「参画」は「参加」より能動的で責任の自覚が高い状態をさす。
21	システム	複数の要素（ソフト・ハード）を関係づけ、全体としてまとまった機能を発揮させるためのしくみ。
22	ネットワーク	ひとつの組織として自己完結するのではなく、様々な人々やその集団との関係をひろげていくことにより、新たな可能性をつくりあげていく状態やその方向性。
23	NPO	社会性のある事業・活動をすすめる「非営利組織」であり、法人格の有無にかかわらず、市民団体、消費者団体、各種の協同組合、NPO法人などの法人組織、自主性の高い地域団体などひろく位置づける。また、制度上は「営利法人」に分類される法人であっても、その理念や事業内容が社会性に高い比重がおかれている法人も位置づける。

>>>　次ページ